



一貫コース通信

一貫コース 12期生の入学を祝し(実りの多い学校生活で在る事を願って)

桜の花に祝福されて、福島成蹊中学校に入学した26名の12期生諸君、また、新たに高校生となった9期生諸君進学おめでとう。中高生が集う学び舎を生かし『校訓』の体現者たる“魅力溢れる、問題解決能力を備えたヒト”となるべく、共に励んで参りましょう。その為には、先ず、先輩は後輩に対し思いやりの心を、後輩は先輩への尊敬の念を持って下さい。

さて、本年は開学から108年目を、一貫教育も12年目を迎えました。本学が一世紀を超え発展出来た要因は『桃李の精神』を堅持しながらも、常に時代に適った努力を続けて来たからに他なりません。これを表す格言“不易流行(ふえきりゅうこう)”は、物事にはその本質として変えてはならないものがある一方、時代と共に変化しなければならない理(ことわり)のある事を教えてくれます。また、この事は国の趨勢や学校の在り方に止まらず、人の成長にも通じる事です。端的に言えば、成長とは“before&after”の差で、前と比較し何が出来た様になったかです。例えばスポーツの技術や芸術分野の表現力もそうですし、勉強では学力もこれに当たります。少し、視点を変えると、人の魅力でもある教養等も、その人の生き方に結びついた“b&a”です。結局の所、これは自分の成長への意志であり、そのヒトを決定付けている様に見えるのです。

ここで歴史の一コマを紹介します。大航海時代の事です。世界各地で様々な人々の生活が解って来ます。そこで白色人種、黄色…云々の分類が出来たのですが、この人種の括りは生物学的種概念では全くの誤りです。生物学では“ホモサピエンス”の一つで、同種なのです。しかし、生活様式(文化)の違いがこれに被り、肌色でヒトの優劣を決めてしまったのです。これに強く疑問を持った一人が、“チャールズ・ダーウィン”です。後にビーグル号で、世界各地を航海し、観察の事実から様々な生物の形態を調べ、やがて【進化論】に辿り着くのですが、発端は、肌色の違いに因る人の優劣問題だったのです。私の経験など、とてもダーウィンに比するものではありませんが、一つ言える事は、諸君が思っているほど人の能力の差など、ないと言う事です。勿論、優劣などは在りません。しかし、もし、実際に生じる差の要因はと聴かれたら、躊躇なく目的に対する想いの強さ、成長への意欲の差と答えるでしょう。また、先人の一人も詩の中で同様の事を語っています。

『 天分、これを持たない者が居ようか。

才能、単なる子供の玩具。

努力こそが人を“ひと”とし、

汗のみが天才を創る。

』一ドイツの詩人・テオドール・フォンター

